

「事前学習Ⅰ」

講師 室田 信一 先生

人文社会学部 人間社会学科 准教授
／ボランティアセンター アドバイザー

2022年6月25日（土）

報告



6月26日（土）13:00～16:30、南大沢キャンパス 本部棟 大会議室にて、都立大独自のボランティア活動であるボランティアプログラムの「事前学習Ⅰ」を、昨年同様、実施しました。実施に当たっては、検温やアルコール消毒の徹底、フィジカルディスタンスの確保など、感染症対策をしっかりと行った上で、対面で行いました。

本学のボランティアプログラムは、学習と連動した活動を年間を通じて行うもので、「地域ボランティアプログラム」と「スポーツボランティアプログラム」の2つのプログラムを実施しています。参加者の初顔合わせとなる今回は両プログラム合同で実施し、「地域」23名、「スポーツ」19名、合計41名の学生が出席しました。

講師は、ボランティアセンターのアドバイザーでもいらっしゃる、人文社会学部 人間社会学科の室田信一先生にご担当いただきました。

講師の室田 信一 先生



■ 当日の様子

前半は、参加プログラムに関係なく、座席を並べた8つのグループに分かれて、ワークを行いました。初めのうち、学生たちは緊張した様子でしたが、アイスブレイクなどを通して次第に打ち解け、和やかな雰囲気になりました。

続いて、ボランティア活動を始めようと思った動機を掘り下げていきました。まず、3～4人の組をつくり、一人が語り手、他の人が聴き手となって、それぞれの動機を聞き合いました。質問などを交えながら自分の動機を他者と共有したり、他者の動機と比べたりすることによって、自分の想いや価値観について改めて考えることができましたようです。

「新しいことを経験したい」「人とのつながり」「社会的課題の解決をしたい」などコロナ禍でも持ち続けたボランティア活動への意欲や、小グループで共有されたそれぞれの動機については、共通点・相違点なども含めて全体で共有されました。

後半は、参加プログラムごとのグループに分かれ、各プログラムの「社会性／公共性」を考えるワークを行いました。プログラムのリーダー学生から、各プログラムの「活動テーマ」や「扱う社会課題」、「活動概要」「活動によって期待される効果」についての説明を聞いた後、各自で参加プログラムの社会性について考え、付箋に書き出しました。

■ グループワークの成果物



その後、グループ内でそれぞれの考えを共有し、模造紙上で内容ごとに分類したり、見出しをつけて見やすくしたりしました。さらに、その「社会性／公共性」に対し、これからそれらの実現に向けて活動をするを踏まえた自分の気持ちを書き加えるなどして、プログラムの社会性への考え方や想いを共有しました。

ワークの最後には、ワールドカフェ方式を用いて全体での共有も行いました。説明役の1人を除いて席を移動し、他のグループの考えや成果物を見て回りながら、説明を聞いた感想や自分の考えをそのグループの付箋や模造紙に書き込むという流れで実施しました。自分以外の様々な視点や価値観に触れたことで、自分自身の考えやボランティア活動、社会性に関する学びを深める機会になったと思います。

■ ボランティア宣言

今回の事前学習Ⅰの最後では、スポーツと地域ごとで車座にまともって、「大都市東京をどのような街にしたいか」「その東京の中に自分をどのように位置付けたいか」といった『ボランティア宣言』を一人ずつ発表しました。

車座になって『ボランティア宣言』発表



都立大ボランティアプログラムでは、1年目を「参加の段階（第1ステップ）」、2年目を「参画の段階（第2ステップ）」、3年目以上を「創造の段階（第3ステップ）」と位置付けています。プログラムへの継続的な参加を通して、参画度を高め、学生自らがプログラム自体を創っていく仕組みになっています。

ボランティア宣言（前ページ続き）

これからボランティアプログラムの活動が本格的に始まっていきます。来年2月に実施を予定している「事後学習」の際には、様々な経験をしたうえで、この『ボランティア宣言』で表現した自分の想いや考えが変化したのかどうかを確かめる予定です。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、一昨年度は事前学習中止・ボランティア活動が殆どできず、昨年度は事前学習・ボランティア活動を感染対策に十分配慮して実施しました。今年度は感染対策に配慮しつつも、事前学習から学生たちの活発な意見交換・協業が目立ち、明るい雰囲気の中、非常に有意義な時間となりました。

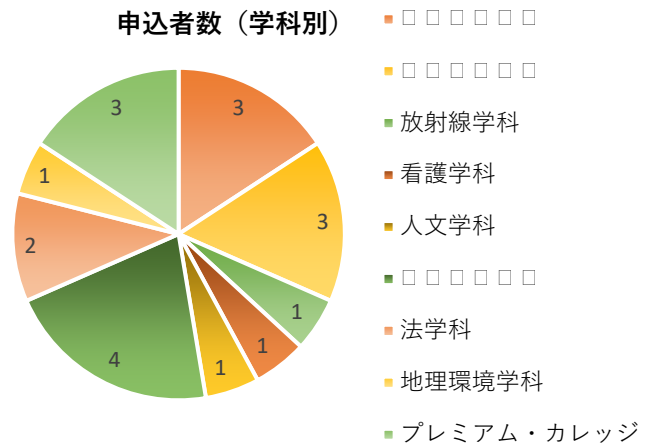
「事前学習Ⅰ」参加者の声（一部）

- ・ 宣言を考える際、どんな東京にしたいかという大きな視点で考えることができた。
- ・ 地域の活性化やスポーツ促進に関わり、役に立っていきたいという思いができた。
- ・ コミュニケーションにより目標が結びついた。発表活動を通じ伝える難しさを感じた。
- ・ みんなの考えを聞きコミュニケーションを取ることで活動への動機が明確になった。
- ・ ボランティアを行うきっかけの考えを深めることができた。動機が明確になり責任を持ち参加しようと思えた
- ・ グループワークが有意義でスポーツボランティアプログラムでの目標や行いたいことが明確になった。
- ・ “一人ひとりが輝くことのできるフィールドをスポーツを通して作りたい”との思いがある。“壁のない街を創りたい”という目標/宣言を掲げ、障害、性別、年齢など関係なく一人ひとりが輝けるフィールドを創りたい。
- ・ 里山の保全を目指す目標とともに、日向緑地をより良いものしていこうと思えた。
- ・ たくさんの人と繋がりたいというのがあり、それは目標である地域交流、地域活性化にも通じていると感じた。
- ・ 社会でおこる問題や課題を解決したいという点で結びついたと感じた。

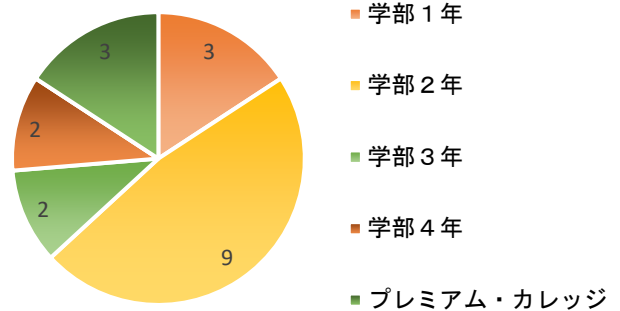
2022年度ボランティアプログラムに関するデータ

(学科・学年は円グラフの右上からスタート)

■ スポーツボランティアプログラム

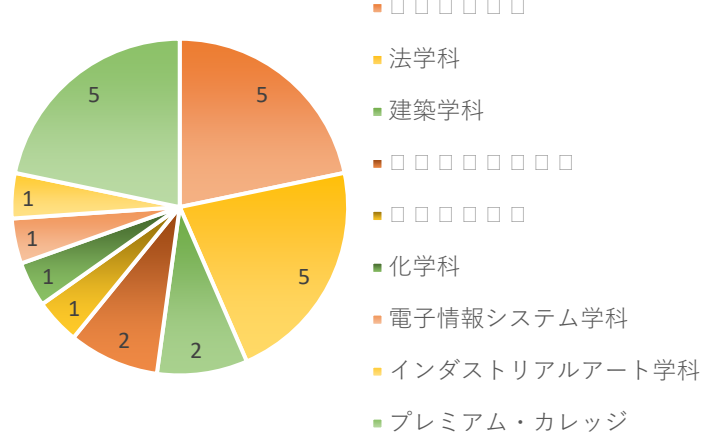


申込者数（学年別）



■ 地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」

申込者数（学科別）



申込者数（学年別）

